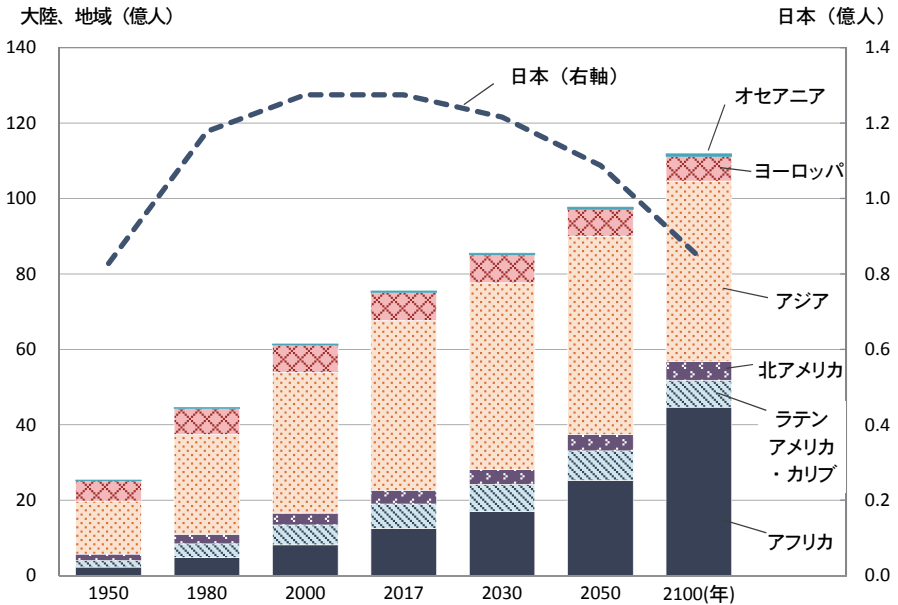


2-1 世界、大陸及び主要地域の人口（中位推計）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-1表 総人口」(p.55)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は、1950年以降飛躍的に増加し、1974年以降は増加率が低下したものの、2000年には61億人に達し、2011年に70億人を超えた。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2017年改訂版(本書の資料出所)によると、2015年半ばに73億人であった世界人口は、中位推計で2030年に85億人、2050年に97億人に増加し、2100年には111億人に達する見通しである。

このうちアフリカの人口は2017年の13億人から2050年には25億人へと倍増する勢いである。2017年に世界の人口の60%をインド、中国の属するアジアが占めているが、2050年とその割合は54%へと低下する。これに代わり、アフリカの割合が17%から26%へと高まる。

日本の人口は2017年の1億2,700万人から2050年に1億900万人、2100年には8,500万人へと減少すると推計されている。

2017~2050年の人口の増加は、ウガンダ、エチオピア、コンゴ民主共和国、タンザニア、ナイジェリアのアフリカ諸国に加え、アメリカ合衆国、インド、インドネシア、パキスタンの9か国に集中する見込みとなっている。